

令和2年7月3日

学生，保護者のみなさまへ

沼津工業高等専門学校
学校長 中村 聡
学生主事 小林美学

課外活動に関する本校の方針について

本校では新型コロナウイルス感染症に関し、「すべての学生及び教職員の生命を守るため、感染者の発生と感染の拡大を起こさないよう最大限努める」ことを基本方針としています。その対策の一つとして現在、課外活動を見合わせています。

一方で近隣の高校で対面授業や課外活動が始まり、種目によってはインターハイ予選の代替大会の開催が決まる中、本校の課外活動見合わせについて、学生や保護者から意見が寄せられています。6月30日(火)には運動部に所属する学生諸君と面談する機会があり、課外活動の早期再開を強く願う思いを聞きました。ある運動部からは学生，保護者，卒業生98名分の署名も頂戴しています。

高等教育機関に属する本校は広域から学生が通学していること、大規模な学生寮を抱えていることなどから、未だ通常登校の目処が立っていない状況にあります。その中で5月19日(火)より、ほぼすべての講義科目について遠隔授業を実施してきました。また6月29日(月)からは遠隔形式では実施が難しい実験・実習科目のために、半数の学生を対象にした限定的な分割開寮、分割登校を開始したところですが、未だ半数の学生が登校できない状態に胸を痛めています。分割登校の実施にあたってはできる限りの周到な準備をしてきたつもりですが、学内および集団生活の場である学寮で万が一のことがあったらと思うと不安はぬぐえません。それでも本校が高等教育機関として社会から求められている責務に応えるべく、学修の継続に向けて努力を続けてきました。実験・実習科目のための限定的な分割登校が始まった今も、大小に関係なく減らすことのできるリスクは極力減らし、半数の学生を対象としながら実験・実習科目に限定した対面授業と、その実施にあたって不可欠な開寮状態が継続できるように、学生と保護者のみなさまのご理解とご協力を切に願います。

学生と保護者から、早期の課外活動再開について強い要望があることは真摯に受け止めています。活躍の場が得られない無念さは言葉にできないものでしょう。各自の目標設定も難しい状態にあることと思います。ネットワークを介したミーティングや個人の自主的なトレーニングでは到底足りるものでないことも、十分に認識しています。

新型コロナウイルス感染症に関する本校の基本方針からも、通常登校が検討できる状態になったところで課外活動再開についても検討するのが一般的と思われます。一方で前期よりも制限が少ない分割登校を後期から実施できるのであれば、分割登校の状態であって

も後期からの部分的な課外活動の再開を検討することは可能と考えています。現在はまだ学修の継続を最優先としている状態であることに変わりはありませんが、学生のみなさんの心情を考慮しつつ、状況に照らし合わせながら課外活動再開についても柔軟に判断していく所存です。もちろん前期の間であっても、状況が大きく変わることがあれば臨機応変に対応します。

なお例年、各クラブ・同好会に安全対策表を提出してもらっています。今年度はその項目に「新型コロナウイルス感染症対策」を加えることを考えています。学生のみなさんにも、顧問教員と相談しながら各クラブ・同好会における新型コロナウイルス感染症に関する安全対策を考えてほしいと思います。